

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、
ご利用いただきたくご案内いたします。
当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽
を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立ての
ほどよろしくお願い申し上げます。

敬白

記

■実施日

平成 22 年 10月 1日（金）ご依頼分より

■新規項目内容一覧

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容 器	保 存	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (単位)	備 考
6267 2	TOP2A遺伝子 (FISH)	パラフィン ブロック ※下記参照		室温	12~16		FISH		&D
6266 5	MET遺伝子 (FISH)	パラフィン ブロック ※下記参照		室温	12~16		FISH		&D

▼検査材料について

- 癌細胞の有無、組織型が不明な場合もありますので、検査依頼時に病理診断書（コピー）の添付をお願いいたします。（ただし、当社で一般病理検査を実施している場合は不要です。）なお、諸事情により添付できない場合には、病理専用依頼書に病理診断名（組織型等）の他、臨床情報等可能な範囲での記載をお願いいたします。
- 材料は 10%中性緩衝ホルマリン固定液に 24~48 時間程度の固定を行った組織をパラフィン包埋したブロックです。パラフィンブロックは破損のないよう、ガーゼなどで包み、ビニール袋などに入れてご提出下さい。
- 未染スライドでのご依頼もお受けしておりますが、その際、必ずシランコートスライドをご使用の上、ご依頼の検査項目に応じた必要枚数（下記参照）をご提出ください。

項目コードNo.	検査項目	枚数
6267 2	TOP2A遺伝子 (FISH)	3枚
6266 5	MET遺伝子 (FISH)	3枚

●TOP2A遺伝子 (FISH)

●MET遺伝子 (FISH)

TOP2A遺伝子・MET遺伝子の増幅を、分子病理学的手法 (FISH法) により解析します。

近年、分子標的薬の登場に伴い、がん診療におけるバイオマーカーの重要性が高まっています。多種多様な作用機序をもつ薬剤が使われるなか、副作用を最小に抑え、効果的な治療法を選択するために、バイオマーカーから得られる情報は重要な役割を担ってきています。とりわけゲノムバイオマーカーの研究は、これからの個別化治療の発展に寄与するものとして期待されています。

●TOP2A遺伝子 (FISH)

トポイソメラーゼ II α (以下TOP2A) 蛋白は、細胞分裂、増殖において重要な働きをしています。乳癌治療で使用される、抗がん剤のひとつであるアンスラサイクリン系薬剤は、このTOP2Aを標的としてその働きを阻害し、強い抗腫瘍効果をもたらしますが、副作用の蓄積性心毒性に注意を要します。TOP2A遺伝子の数的異常の検索は、このような薬剤の効果予測に有用である可能性があり、乳癌治療のさらなる個別化治療に向けて、研究が進められています。また、TOP2A遺伝子は乳癌での遺伝子増幅がひろく知られているHER2遺伝子の近傍に存在することから、関連遺伝子との研究が進められており、乳癌における治療法選択手段の1つとして注目されています。

▼関連する主な検査項目

- HER2遺伝子 (FISH) ●HER2/neuタンパク (染色法)

●MET遺伝子 (FISH)

METは、肝細胞増殖因子 (HGF) をリガンドとした受容体チロシンキナーゼで、細胞の増殖や転移のシグナル伝達に関わっていると考えられています。MET遺伝子の異常は様々な癌で見られ、現在、METからのシグナル伝達を阻害するMET阻害剤が多く開発されています。また、肺癌治療薬ゲフィチニブに耐性を示した症例で、MET遺伝子の増幅が認められたことから、その耐性克服の治療標的としても注目されています。

▼疾患との関連

- ゲフィチニブ耐性肺癌、その他固形腫瘍

▼関連する主な検査項目

- EGFR遺伝子 変異解析 (Cycleave法)

検査要項

項目コード No.	6267 2	6266 5
検査項目名	TOP2A遺伝子 (FISH)	MET遺伝子 (FISH)
材 料	パラフィンブロック (※前ページ参照)	
保 存 方 法	室温保存してください。	
所 要 日 数	12~16日	
検 査 方 法	FISH	
基準値 (単位)		
検査実施料・判断料	未収載	
備 考	&D	

●参考文献

F.P.O' Malley, et al : J Natl Cancer Inst 101 (9) : 644~650,2009. (TOP2A遺伝子 検査方法参考文献)
 Federico Cappuzzo, et al : J Clin Oncol 27 (10) : 1667~1674, 2009. (MET遺伝子 検査方法参考文献)
 Aman U. Buzdar, et al : J Clin Oncol 24 (16) : 2409~2411,2006. (TOP2A遺伝子 臨床的意義参考文献)
 Jeffrey A. Engelman, et al : Science 316 (18) :1039~1043,2007. (MET遺伝子 臨床的意義参考文献)